

## 海外留学報告書

北海道教育大学釧路校 学校カリキュラム開発専攻 4年目 6242 三浦 国熙

留学先：シドニー工科大学 (UTS) 留学期間：Feb / 2019 ~ Jan / 2020

### ~Once In a Lifetime Experiences in UTS, Sydney, Australia~

#### ① 留学中の活動内容

私の留学先である UTS は、ハイテクで、大学設備も良く、数多くのクリエイティブな授業が開講されていました。前期は、学部の進学に向け、準備コース(Australian Language and Cultural Studies)に所属し、後期から、IELTS で規定スコアを取得して、学部の授業、International Studies という学科の勉強をしていました。前期で受講していた授業は、Australian Language Studies、Australian Work、Australian Media でした。Australian Language Studies では、学部進学に向け、IELTS、TOEFL 対策としてのワークが主体でした。内容は、ライティングタスクの問題を解き、クラスメイトのエッセイを例に、文構造や、文法、ライティングにおける効果的な表現を確認するディスカッションなどがありました。他にも、スピーキングタスクにおける、口語表現や、発音の確認などを経て、ペアワークを通してお互いの論点、英語表現をより洗練されたものにするためのアクティビティなどもありました。Australian Work では、オーストラリアのワーキング形態や、その実態の把握から、自分自身でオーストラリアの社会のバックグラウンドや、そのカルチャーを理解するといったものでした。具体的なタスクとして、自分自身で、シドニーで実際に働く会社員にアポイントをとり、インタビューを実施する機会がありました。また、その後、そのインタビューで得た知識や情報をプレゼンテーションで共有し、その発表に関わるアクティビティをクラスに投げかけた後、自分自身の思うオーストラリアのワーキングカルチャーを総括するという活動がありました。Australian Media では、オーストラリアで放送されている TV 番組や、自国で制作されたオーストラリアが題材である映画を鑑賞し、その特徴や、歴史的事実から、オーストラリアの文化やその成り立ちを推測するという授業でした。私は、実際にタスクの中で、Woman in Black という 1960 年代のヨーロッパの移民の増加に伴って、オーストラリアにヨーロッパ文化が流入する最中、ある一人のオーストラリア人の女の子が、変化する時代の中で、自身も新しい文化に触れ、一人の女性として成長していく物語を見ました。そして、その中で、当時の移民や、その文化の影響が、今日のオーストラリア文化や、社会形態を形作ってきたといったことを学習のゴールに据え、プレゼンテーションの中で、仲間たちと発表を共有する活動をしました。後期では、IELTS のスコアを満たし、学部進学の夢を叶え、Academic English という授業を受講しました。この授業の中では、オーストラリアの環境問題をテーマに据え、その問題に関する知識と現状把握を基に、参考文献や、インターネットで得た情報を生かして、その Solution を考えるというものでした。私は実際に、コアラといった、オーストラリアの動物とその生息地、生活形態、またその特徴と、その動物が抱える自然問題について考えました。そして、ネット文献や、図書館を利用して情報収集をし、その学習の成果をプレゼンテーションで発表し、最終タスクでは、自分の学習内容を英語でのエッセイで論文を書く活動をしました。授業以外では、Australian and Japanese Society に所属し、二つの異なる文化を、イベントなどを通して体感することができました。また、学校生活以外では、ローカルの有名レストランで、ウェイターとして働く中で、普段、顧

客としては見ることのない世界を体験し、今まで経験したことのない英語での接客、同僚とのコミュニケーションの中で、責任ある役職を誠心誠意に努め、働く喜びを感じるとともに、より一層高い次元で、“オーストラリアとは”、また“オーストラリア人とは”、という理解を促進することができた、一生に一度と言っている、非常に意義のある経験をすることができました。また、9月には、今まで挑戦することのなかった、フルマラソンをSydney Marathonで体験し、長期的に大きな目標に向かって努力することの素晴らしさと、完走することで得ることのできる大きな達成感を、身をもって感じることができました。

## ② 留学での成果・得たこと・反省点・今後の計画

私は留學生活を振り返ってみると、多くの観点で、自分の成長を実感し、自分が挑戦したことには大きな意義があったと振り返ることができると感じています。生活形態では、他の学生のほとんどが利用するUTSの寮を、高額であるという理由で断念し、自らで、テナントを募集しているフラットや、その会社に連絡をし、そこでの英語でのやりとりや、交渉を通して、自身の生活先を確保することができました。また、積極的に住居を変える中で、あらゆる国々から来たフラットメイトに出会い、“家族”と呼び合えるような仲間とともに、感動も、苦難もともに共有することができました。授業面では、実際に英語環境の中で用意されたタスクを、自分が学習した内容から、また、その情報から推測して、答えを出すプロセスを学ぶことができ、英語圏、Academicなシチュエーションでの、問題解決能力を向上させ、その結果として、自分の英語能力を総合的に向上させることができたと感じています。また、英語環境でのアルバイトを経験して、オーストラリアに対する知見、理解を深め、各国から集まる同僚たちと協力をし、お客様が喜んでいただけるパフォーマンスを心掛ける中で、そのワーキングカルチャーを肌で体感することができました。その中で、お客様から満足の声をいただいた時に、第二言語学習者だからこそ感じる、大きな感動とその喜びを感じることができました。また、自分自身で、そういった経験から、蓄えを得て、異国での生活を独立した形で一年間生活することができたという観点で、非常に評価することのできる一つの経験であったと振り返ることができました。反省点としては、後期の授業選択のタイミングで、数ある選択肢の中から、2～3の講義を選択できたところを、一つだけ選択したという意味で、その授業には多くの時間をかけ、実際にHigh Distinction（最優秀）のグレードをとることができましたが、他の講義を受講することで、自分の成長を得ることができたかもしれないという可能性を考えた時に、複数の授業を受講するべきであったと振り返っています。今後の見通しとしては、この留学で得た、多くのperspectiveとその経験を通して、自分自身が成長することができた多くの要素をフルで活用できる場所を、就職活動の中で見つけていきたいと考えています。そして、その新しい職場で、“英語”という言語を使い、日本人と、オーストラリア人と、世界の人たちと関わり合う素晴らしさをより一層実感する中で、人間的にも、英語学習者としても、また、将来、教壇の上に立ち、生徒に英語と、その夢を教え伝えていく一教員としても、成長していくことのできる自分でありたいと心から願っています。

## ③ これから留学する学生へ

留学をするということ、それは、どんな側面で見ても、ある種の挑戦であり、学生として一生に一度

しか経験できない価値のあるイベントです。もちろん、留学を決めるにあたって、経済面や、スコアの取得、また留学をする期間や時期によって卒業延期が決まるなど、あらゆるリスクがあると思います。実際に僕自身も、裕福な家庭にいるわけでもなければ、今年また一年、5年目としてこの学校に在籍します。しかし、自分の努力次第で、留学の切符を手にすることができます。交換留学をすることで、授業料は一切かからず、その出費を最大限に抑えることができましたし、留学先の学校生活以外で、働く中でその文化や、その多様性に触れ英語を勉強しながら、自分の生活を独立した形で確立することができました。また、スコアを取得するまでの流れで、頻繁に「そのスコアに至るまで必死で努力しました。」「すごく大変でした。」などの体験談を聞き勉強させてもらいましたが、私自身、留学に向けて勉強をする場面で“苦”の文字を一度として感じることはありませんでした。それは、自分が一番にモチベーションを上げるための軸だと考えている、スピーキングやライティングを常に遊びで、インターネットを駆使してチャットを試してみたり、大学にいる英語の先生との時間を設けてみたりといった意識づけが、私自身の英語力を向上させるきっかけとなったのだと感じています。また、好きな洋楽、洋画に触れ、その自分にとって好きなことをする時間が、結果的に有意義な英語学習となったのだと思います。テキストを開くこと、参考書を読むこと、講義に出席することが必ずしも、生きた学習になるわけではないと心から、自分の経験を通して実感しました。だからこそみなさんも、自分の留学に行く夢を、それに対する大きなパッションを胸に、楽しく英語に触れ、留学に向けて、英語遊びを、勉強を充実させてほしいと心から願っています。



With flatmates, Sydney (フラットメイトと)



Judo practice in University of Sydney (シドニー大学にて柔道の稽古)



Christmas party, Sydney (レストランの同僚とクリスマススタッフパーティー)



Diamond Bay, Sydney (丘から海を望む)